

2021年10月25日

「総合コミュニケーション科学学会」設立趣意書

2011年3月に発生した東日本大震災や2020年に人類を襲った新型コロナウイルスは、自然への関わりについて私たちに深刻な反省を強いています。私たちは、18世紀後半に登場した産業革命以来の自然観や自然への接し方を振り返り、人工物と自然の融合を図ることを求められています。

この難題に何を拠り所に取り組むべきかを模索するなかで、地球上に生物が登場して以来、その全ての活動に共通する普遍的な機能は、「コミュニケーション」であることに気がつきました。生命現象では、細胞間や臓器間でのコミュニケーションが知られています。個体を超え、種を超え、動物と植物の差異を超え、生物と無生物の境界を超え、人工物と自然物の区別を超えて、多様な「コミュニケーション」が縦横に繰り広げられています。この普遍的な「コミュニケーション」に視点を置き思考する、総合的な「ものの見方(学問、思想、科学、行動様式)」として「総合コミュニケーション科学」を提唱します。それは大きく二つの視座から成ります。

第1に、地球上のあらゆる存在者は、コミュニケーションで相互に結ばれていると考えます。それは、「人と人」のコミュニケーションに限定されず、人と自然、人と社会、人と人工物に加え、自然と自然、自然と社会、自然と人工物、人工物と人工物などの間で起こる、複雑かつ動的な相互作用です。コミュニケーションの現象として観察する範囲を広げることで、多様な人間や多様な自然や人工物などに対して、取るべき行動のあり方を思考する範囲も広がります。

第2に、「総合コミュニケーション科学」は、さまざまな知識や知恵を基に、立場が異なる多様な人々が協働して、新たな叡智を産む「総合」を目指します。地球温暖化のように、自然と人類社会の境界で生じている危機や、人が自ら創り出したものが人々の生活や心に及ぼす、複雑で互いに矛盾する諸問題に対して、特定の分野の専門知識だけでは「正解」を導くことは、困難になっています。予め正解が与えられておらず、解法さえ定まっておらず、しばしば問題の全貌を認識することさえ困難な未知の問題に向き合うには、様々な分野の専門家や市民が、その知恵を「総合」することが必要です。そのための知の総合の場として、この学会の設立を提案します。

戦争の世紀とも呼ばれた20世紀を経て、21世紀の今日もなお人類は、格差や分断のもとにあります。地球を壊さない、生命を破壊しない、人類をばらばらにしない叡智を創造し続けることができる人類社会を希求し、その遠大な目標に向かって「総合コミュニケーション科学」を構想する本学会を立ち上げることにいたしました。

この学会は、様々な分野の専門家から、日々多様な問題に取り組む市民の方々、未来を担う学生まで、広く開かれています。未来に希望を繋げようとする多様な人々の参加を心からお待ちしています。

<発起人(五十音順)>

安部 博文	伊藤 正実	ウィクラマナヤカ	ニブン ラビンドゥ	上野 友稔	
越前谷 義博	岡崎 昌史	奥 浩昭	奥田 忠久	梶谷 誠	金森 哉吏
久野 美和子	嶋田 浩一	高橋 敦志	瀧 真清	田中 繁	飛田 和輝
橋山 智訓	林 大樹	久野 雅樹	古川 浩規	牧 昌次郎	養老 毅暁